



HPI「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

丁寧で誠実な市政の運営を望む

3月議会、辻さんの一般質問で、瀬戸岡の霞野地区におかしな開発が計画されていることを知った。

霞野地区は、市の「都市計画マスタープラン」によれば、「利便性の高い市街地」になるはずの、秋川駅からそう遠くない所で、既に多くの人暮らししている。

ところが、民間事業者が、住宅の建っていない、圏央道に隣接する所だけを利用して、工場や物流施設を誘致するという。市の方針に反するものだが、市長は、3月議会の初日に、この開発を進めると表明した。

辻さんと市側との質疑応答を聞いていて、この計画には問題が多過ぎると、よくわかった。「マスタープラン」を作り直さなければならない。現地は市街化調整区域だから、法律上の制限があって、計画にあるような施設をそのまま造ることはできない。計画にある道路は日の出町に属する部分があるのに、日の出町に話をしていない、等々。

また、近隣住民への説明会は、市長の発言より後に開かれた。都市計画審議会はこれからだという。順序が違うのではないかと驚いたのは、市長が担当の部長に業務命令書を出すという異例の事態があったこと。担当者が、この計画は無理だと反対したのでもなければ、こんなことは起きないはずだ。一事業者のためにこんなやり方をしたら、裏に何かあると勘ぐられてもしかたないだろう。

市長は、民主政治の基本に立ち返り、まずは市民の意見を聞き、市職員と相談して審議会に諮るなど、丁寧で誠実な市政運営に努めてほしいと思う。

(S・K 高尾在住)



「日米地位協定の改定を求める陳情」

第2弾を提出して

2018年、オスプレイ5機が横田基地に配備された年、「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」では、日本側にとっても不利な「日米地位協定」の改定を求める陳情を出しました。しかし、自民党志清会と公明党はそれぞれ「協定の改定ではなく運用の改善で対処できる」、「党で改定案を検討中である」という理由で不採択にまわり、陳情は採択されませんでした。

それから3年経ちましたが、騒音被害は一向になくならず、むしろ最近では低空飛行に肝を冷やすことが増えました。せめてもの思いで、市に苦情を入れても米軍から誠意ある回答は得られず、昨年7月には、都に事前通知もなく6機目のオスプレイが追加配備されてしまう始末です。

さらに私たちが不安を覚えたのは、今冬、沖縄、山口、広島で米軍基地から新型コロナウイルスのオミクロン株が広がった可能性が高いこと、そして横田基地の周辺井戸(立川・武蔵村山)から有機フッ素化合物が、基準の27倍という高い濃度で検出されたことでした。どちらも住民の健康に直結する問題で、見過ごすことはできません。

そこで、再度「日米地位協定の改定を求める」陳情を提出しました。結果は数で勝る自民党志清会、公明党が前回とほぼ同じ理由で反対し、賛成少数で不採択となりました。最終日の本会議では全会派が賛成・反対の討論を行いました。陳情に反対した志清会、公明党はどちらも、党の意向や取組を述べるのみで、あきる野市の市議として日米地位協定をどう見ているのか、市民の負担軽減をどのように考えているのかについての言及がなく、がっかりしました。最後に討論に立った辻さんが、志清会の反対理由を論破するのを、頼もしく聴きました。(H・K 草花在住)

普通の明日が続きますように！

つい先日、孫の誕生日祝いに娘の家に行き、桜満開の隅田川べりで楽しいひとときを過ごしました。行き交う人々の笑顔、お花見屋形船から聞こえてくる歓声、幸せな春の一日。

しかし、夜にテレビをつければ、同じ瞬間に戦火に追われ逃げ惑い、瓦礫の下敷きになった人々、何日も歩いて隣国へ逃げる人々、先の人生が一瞬にして無くなったと嘆く母子。

特に忘れられないのが、広場に並ぶ無人の109台のベビーカーの映像！ リビウで亡くなった赤ん坊の数だそうですが、今はずっと多くなっているでしょう。日常生活に突然、飛び込んできた戦争。まるでドラマを見るように毎日戦闘シーンが映し出されます。

ロシアでは、厳重な報道規制の中、一方的に国の宣伝を信じている人も少なくないと聞きます。状況が悪化し、多数の同胞が戦死し、世界中から非難されていく様子は、まるで戦時中の日本の有り様をリアルタイムでみているようです。戦争は国家という名の下に利権と結びついた権力者が個人の尊厳を踏みにじり、身体を領有することなんだ！という事をロシアの現況を見ながら改めて感じました。

ロシアの暴走を止められるのはロシア国民であるとしても、私達も戦争への道を止めるために、自国の暴走、「命をかけて戦うことを称賛するような政治家や、ここぞとばかり憲法改悪を叫ぶ政治家、突然の節電騒動などで緊急事態条項を合法化しようと企む政治家」を許さない努力をしなくては！と思う日々です。2歳になる孫が平和で安心して暮らせる毎日が続いていくためにも！

(M・M 館谷在住)



今、大事にすること

～子どもと豊かな時間を過ごすために～

あきる野市に移り住んでから14年になった。子どもを連れてどこかへ遊びに行くだけのお金も免許もないので、公園を渡り歩いて育った長男はこの春中学生になった。以前は駅前を歩けば知合いに会うといったような場所に住んでいたため、あきる野市のコミュニティはどういったものがあるのか分からず、当初は手探り状態だった。けれど、自分の感覚を頼りに、市内だけではなく隣町の日の出町ごみ最終処分場の問題を考えるコミュニティや、さらに檜原村にある旧小学校校舎を活用し地域活性化を目指すNPOコミュニティへと広がっていった。年の離れた次男が産まれた頃には遊びに行く場所もいくつか頭に浮かぶようになって、ここに住んでいるという実感が持てるようになった。

でも、今の学校教育には大きな不安を抱いている。教育は国の経済の流れの中に組み込まれていているようだ。子どもたちが豊かな時間の中で感じることを、体験すること、考えることが、経済優先で二の次にされている。さらにはコロナ禍で、国の方針が全国の子どもたちに直結して流れてくる仕組みがあらわになった。そこには先生や親をはじめとする大人たちの声も入っていなかったことが、とても恐ろしいと感じた。

世界情勢を聞くたびに耳をふさぎたくなり、何を大事に生きていくのか、否応なく生活の中で突きつけられる。そんな時、まずは自分の目の前の人とちゃんとやり取りしながら、今を生きていくことがすごく大切なことだと感じている。

(S・H 野辺在住)

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、3期目。常任委員会は福祉文教。草花で、夫と次男、ネコ1匹と暮らす。

無党派
一人会派

